

バイオを知る

くらしとバイオ LETTER 14

特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ 21

2018年4月号

活動報告

サイエンスアゴラ 2017 シンポジウム

「納得して医薬品とつきあうために～医薬品の効き目と価格」

2017年11月25日テレコムセンター（お台場）で開催されたサイエンスアゴラ 2017 でシンポジウムを行いました。2013年にサイエンスアゴラへ初参加した際はシンポジウム「メディアとともに考えるくすりの副作用」を開催、副作用に着目して考え、話し合いました。医薬品の話題はそれについて2回目となります。

今回は話題になっている薬価まで視野を広げて開催し、日本製薬工業協会 専務理事 川原章氏とくすりの適正使用協議会 理事長 黒川達夫氏から、くすりのできるまで（臨床試験や関係する法律など）、薬価の決め方、海外で生まれたくすりの扱い、ジェネリックについてお話をうかがいました。わかりやすいお話で「ジェネリックの意味が初めてわかった」「上手にくすりを選んでいきたい」という薬を利用する立場の意見が多かった中、大学生から「製薬企業が新薬を開発できるような環境整備が大事だと思った」という意見が印象的でした。



川原章氏の講演



黒川達夫氏の講演



全体の様子

定例総会 記念講演のお知らせ

近年、インターネットやSNSの利用が広まり、マスメディアからの情報が持つ社会への影響も変化してきました。また、記事に対して個人が意見表明しやすくなり、マスメディアと読者の関係性も変化しています。

今回は、メディアチェックの必要性を以前より指摘されてきた小島氏にご講演いただき、いま一度、メディアとの付き合い方について考えるきっかけとしたいと思います。

くらしとバイオプラザ21の会員以外の方でも講演会には参加できます。みなさま、お誘いあわせの上、ご参加ください。

日時:2018年5月17日(木) 15:30~16:30

会場:銀座フェニックスプラザ

講師:毎日新聞社生活報道部編集委員 小島正美氏

タイトル:「メディアのあり方を問う～ファクトチェックはどこまで可能か」

小島氏プロフィール:

愛知県生まれ。1974年愛知県立大学外国語学部英米研究学科卒、同年毎日新聞社入社、サンデー毎日や長野、松本支局を経て1987年東京本社生活家庭部記者、1995年千葉支局次長、1997年から現職。2000年からは東京理科大学非常勤講師兼任。2015年から食生活ジャーナリストの会代表。「リスク眼力」、「子どもの脳の育て方」、「誤解だらけの危ない話」等、著書多数。

お申込み/お問い合わせ:くらしとバイオプラザ21までご連絡ください。

新しい育種技術をめぐるバイオカフェ

SIP 次世代農林水産業創造技術「新たな育種体系の確立」社会実装コンソーシアムへの参画も4年目となりました。SIP メンバーをはじめとした研究者のみなさんの協力を得て、日本サイエンスコミュニケーション協会との連携に支えられ、全国の科学館などで今年度は20回近くのバイオカフェを行っています。ここでは、今年度後半に開催したSIP関連のバイオカフェについて報告します。



9月23日 大阪科学技術館
大阪府立大学 小泉望氏
「いまさらきけない遺伝子組換え・
今こそ知りたいゲノム編集」



9月23日 大阪科学技術館
大阪大学 村中俊哉氏
「ゲノム編集技術でジャガイモ食中毒を
なくす」



9月30日 大阪科学技術館
京都府立大学 大坪憲弘氏
「植物の色・形を自在にデザインする」



9月30日 大阪科学技術館
農研機構 東北農業研究センター
中村俊樹氏
「遺伝情報を“目印”に、
あたらしいコムギを創る！」



10月1日 ふじのくに地球環境史ミュージアム
水産研究・教育機構 増養殖研究所
正岡哲治氏
「魚好きのためのバイオテクノロジー
～新しいブランド魚の開発を目指して～」



10月23日 三井住友銀行 SMBC パーク栄
玉川大学 奥崎文子氏
「新たな品種改良法「ゲノム編集」とは？
～健康によいキャノーラ油の作出を
モデルとして～」



10月28日 愛知県図書館
愛知県農業総合試験場 大藪哲也氏
「愛知農総試における野菜の品種育成
～個性あふれる愛知生まれの野菜たち～」



10月28日 愛知県図書館
名古屋大学 佐塚隆志氏
「ゲノムデザインでエネルギー作物を
つくる」



11月30日 岩手県立水沢高等学校
岩手大学 由比進氏
「野菜の種類、品種、種(しゅ)、種(たね)、
と旬の話」



1月14日 蒲郡市生命の海科学館
農研機構 果樹茶業研究部門
後藤新悟氏
「新しいみかんを目指して～品種改良の
最新技術～」



2月3日 下野新聞 NEWS CAFE
農研機構 次世代作物開発研究センター
小松田隆夫氏
「大麦の起源と改良」



2017年10月7日 第12回 ヒトゲノムを用いる実験教室「私たちのDNA」

12回目を迎えた実験教室「私たちのDNA」は、東京テクニカルカレッジ (TTC) バイオテクノロジー科との共催、特定非営利活動法人個人遺伝情報取扱協議会 (CPIGI)、バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社、特定非営利活動法人日本バイオ技術教育学会の協賛により、会場をこれまでの東京農工大から TTC に移して開催しました。

TTC の大藤道衛氏の指導のもと、参加者は自分の口腔粘膜細胞から抽出した DNA を観察したり、Alu 配列の DNA 型を分析したりしました。また、CPIGI・株式会社 DeNA ライフサイエンスより城戸忠之氏と石田幸子氏にお越しいただき、遺伝子検査についてのお話をいただきました。



2018年1月23日 コンシューマーズカフェ「意外と知らない『学校給食』の真相」

学校給食における食品添加物や遺伝子組換え農作物の扱いに関心を持つ声が多かったため、給食のことを基礎から学ぼうと、株式会社菜友の吉田達也氏をお招きし、給食の歴史から法律、給食費、食育や栄養教諭制度のことなど幅広くお話いただきました。

学校給食の献立を作る栄養士や、学校での食育を担う栄養教諭など大事な役割を果たす人々への食の科学に基づいた情報発信や、調理の際の衛生管理のしくみなどについて意見が交わされました。参加者のみなさんが、今後、学校給食にどのように関わるのかについて考えるよい機会になりました。



バイオカフェの この頃



10月8日 千葉市きぼーる
農研機構 生物機能利用研究部門
高木英典氏
「お米で花粉症の症状を改善？ バイオの技術のなせるワザ！」



10月20日 洋菓子店 門 日本橋店
株式会社食品化学新聞社
川本浩二氏
「加工品って食べごろがあるの」



11月11日 千葉県立現代産業科学館
キッコーマン株式会社 片山弘氏
「醤油のおもしろ科学」



11月24日 東京テクニカルカレッジ
東京大学 須田瓦氏
「私達の身体にすむ細菌たち」



1月27日 三鷹ネットワーク大学
サントリーマーケティング&コマース株式会社
富岡伸一氏
「ブレンドのつぶやき 8 蒸留酒の世界とは～造り方と楽しみ方～」



2月9日 東京テクニカルカレッジ
東京テクニカルカレッジ
高瀬恵悟氏
「建築の安全・安心と
リスクコミュニケーション」

これからのバイオカフェ

ご希望の方は会場にお申込みください。イベントの開催案内はくらしとバイオプラザ21のFaceBookページをご覧ください。4月以降も企画していますので、決まり次第、ご案内いたします。

3月8日 三鷹ネットワーク大学 「青い花の発色のしくみ～キクが青くなった理由は？」
農研機構 野菜花き研究部門 野田尚信氏

3月17日 愛知県図書館
第1部「新しい品種改良技術により広がるトマトの可能性」筑波大学 江面浩氏
第2部「新しい花のつくり方～花の種苗会社のお仕事」福花園種苗株式会社 北川雄貴氏

サイエンスカフェコーディネーター養成研修会受講生の活躍

SIP 社会実装コンソーシアムの課題として、くらしとバイオプラザ 21 では全国にネットワークを拡大しつつ、バイオカフェを精力的に開催しています（前ページ参照）。13号で報告したように、7月8日にはバイオカフェの担い手を増やすため、サイエンスカフェコーディネーター養成研修会を開催、10名の受講生が参加しました。

秋からは受講生が各地のバイオカフェの運営に参画し、会場設営・撤収、ファシリテーター、記録作成などの役割を果たし、大活躍でした。自らサイエンスカフェを企画・実施した受講生もあり、今後も活動の場が広がるのが期待されます。

来年度は2018年6月10日に、第2回研修会を開催予定です。



学会等での発表

くらしとバイオプラザ21の活動をまとめ、学会等で発表をしました。自分たちの活動の振り返りになるとともに、学会参加者と議論したことは、今後の活動に反映させていきたいと考えています。

11月15～17日 世界科学館サミット（ポスター発表） @日本科学未来館

12月6日 2017年度生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017、第40回日本分子生物学会年会）（ポスター発表）
@神戸ポートアイランド

2月26日 SIP 次世代農林水産業創造技術「新たな育種体系の確立」合同成果発表会（ポスター発表）
@理化学研究所 和光地区

講師派遣等報告（2017年9月～2018年3月）

9月27日～1月17日 神奈川工科大学「科学技術と社会」（全15回）

9月16日～1月9日 東洋大学「科学コミュニケーション特論」「科学コミュニケーション演習」（各全15回）

12月8日 ConBio2017 フォーラム「そのプレスリリース、誰に届いて欲しいですか？」話題提供

12月13、20日 東京農業大学「植物バイオ」

12月14日 静岡県立田方農業高等学校 植物バイオ 出前授業

1月19日 神奈川工科大学「バイオ製品科学」

会員募集中!



私たちの活動を応援して下さる協力（個人）会員
（1口2,000円～）を常時募集しています！

イベント参加費がお安くなります。（イベントによる）
イベント情報やこのバイオレター（年2回発行）を
優先的にお届けします。



< 編集後記 >

現在、消費者庁では遺伝子組換え食品の表示の検討が行われています。この制度ができてから、17年ぶりの見直しです。くらしとバイオプラザ21設立時からの取組のひとつが、遺伝子組換え食品をめぐるリスクコミュニケーションですから、私たちの歩みと今回の検討に至る経緯には重なる部分が多くあります。この間に、世界の遺伝子組換え作物栽培面積は増加し、「不分別（遺伝子組換え原料が入っているかもしれない）」表示食品が出回り、状況は変化しました。表示は消費者と事業者を結ぶ大切な架け橋です。関係者間の信頼関係のもと、消費者にはわかりやすく、事業者には実行しやすい表示見直しとなるように、そのときに私たちにできることは何かを考えていきたいと思えます。

編集 佐々義子・笹川由紀、カット 中村典子



〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-5-3 日宝茅場町ビル8階
電話:03-5651-5810 FAX:03-3669-7810 e-mail: bio@life-bio.or.jp
HP: <http://www.life-bio.or.jp/index.html>

<https://www.facebook.com/lifebio21/>

@life_bio_21

